

令和7年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告が続いています。
- 百日咳の報告が依然として続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生し、10歳代の報告もみられます。引き続き注意が必要です。
- 感染性胃腸炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年2月24日～3月23日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	32件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	百日咳	36件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	麻しん	5件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代及び70歳代で、O血清群はいずれも不明です。感染経路等も不明です。
2. **E型肝炎**: いずれも50歳代で、経口感染と推定されています。
3. **レジオネラ症**: 70歳代～80歳代で、肺炎型が3件、ポンティアック熱型が2件です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **アメーバ赤痢**: 30歳代～50歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。感染経路は、性的接触と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
5. **ウイルス性肝炎**: 40歳代で、B型肝炎(ワクチン接種歴不明)です。感染経路等は不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 80歳代～90歳代で、以前からの保菌または医療器具関連感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 20歳代～80歳代で、血清型はA群が2件、G群が2件です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: いずれも30歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
9. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 30歳代～90歳代(ワクチン接種歴無1件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件です。
10. **水痘(入院例に限る)**: 30歳代～90歳代(ワクチン接種歴無1件、不明2件)で、院内感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **梅毒**: 10歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者12件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間22件、同性間2件、詳細不明3件)、感染経路等不明が5件です。
12. **播種性クリプトコックス症**: 50歳代で、感染経路等不明です。
13. **百日咳**: 10歳未満～50歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回22件、1回1件、無1件、不明10件)で、家族内感染と推定される報告が10件、周囲の流行と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が20件です。
14. **麻しん**: 20歳代～40歳代(ワクチン接種歴無2件、不明3件)で、海外での感染が3件(タイ2件、ベトナム1件)、国内での感染が2件です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

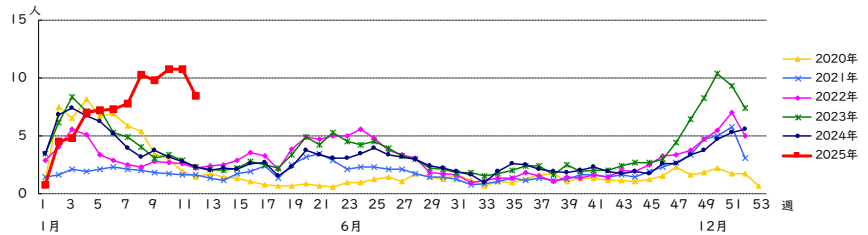
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第9週	2月24日～3月2日
第10週	3月3日～3月9日
第11週	3月10日～3月16日
第12週	3月17日～3月23日

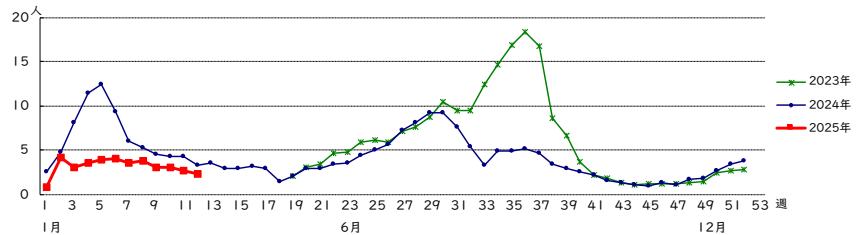
1 感染性胃腸炎

2025年第2週(1月6日～1月12日)以降増加し、例年の同時期よりも高い値で推移しています。第12週は8.41です。



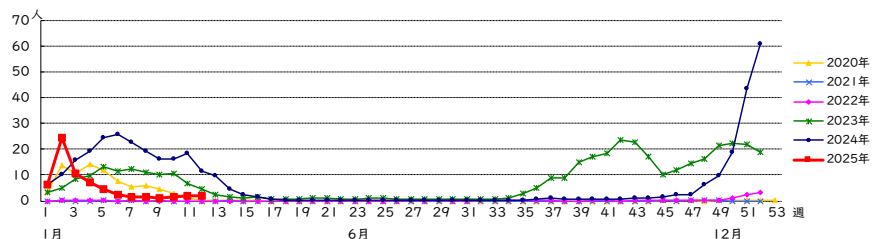
2 新型コロナウイルス感染症

2025年の第3週目以降、概ね横ばいの状態が続いています。第12週は2.26です。



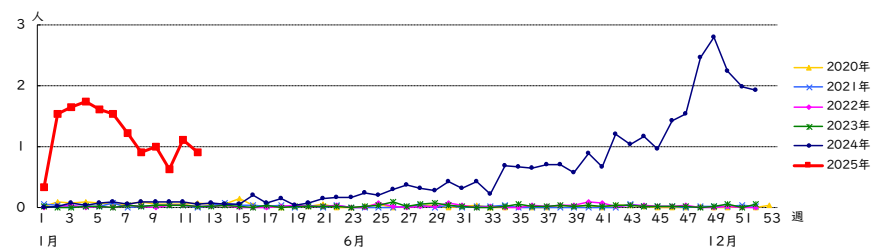
3 インフルエンザ

2024年第51週(12月16日～12月22日)に流行警報の発令基準(30.00)を上回り、第52週は60.52と急増しました。2025年第3週以降、減少傾向が続き、第4週に終息基準値(10.00)を下回りました。第12週は1.86です。



4 伝染性紅斑

2024年第48週に流行警報発令基準値(2.00)を上回り、第49週(12月2日～12月9日)にピークを迎えました。2025年第5週以降減少傾向に転じ、第12週は0.90で終息基準値(1.00)を下回りました。



5 性感染症(2025年2月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:10件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:5件	淋菌感染症	男性:15件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.25	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.75	0.50	1.00	0.00

7 基幹定点月報(2025年2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-